

足場組み立てのSPUシステム

好評

日本仮設が 販売代理店 宮坂建設施工

道横断道鶴川橋下部工事で稼働中

〔帯広〕山口県周南市の芝建設が開発し日本仮設（本社・札幌、菊原茂社長）が販売代理店として全国で普及を図っている足場組み

立て工法のSPUシステムが道横断道鶴川橋下部現場に導入され、好評を得ている。同社は十数年前から代理

店として土木、建築現場で普及を図り、これまでに全国で150現場の実績を積み重ねてきた。鶴川橋下部は、宮坂建設

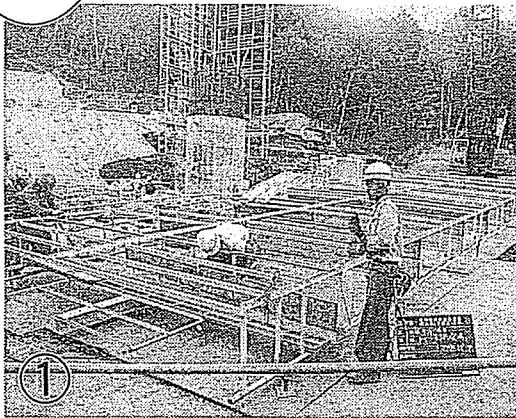
工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）が東日本高速道路から受注し、昨年3月に着工。高さ平均28メートル前後の橋脚10基と橋台1基の設置が主体で、来年12月の完成を目指すとしている。橋脚のうち円形橋脚7基の施工にSPUを取り入れ、これまでに

1基が完成し現在、3基の施工を進めている。SPUの最大の特徴は安全性の高さ。足場を地面で組み立ててからクレーンで取り付けるため、高所での人力作業がなく、熟練した技能工も必要としない。組み立てた足場は、橋脚

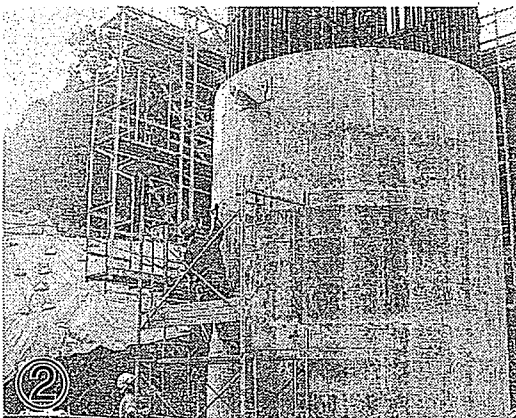
に打ち込んだアンカーボルトに取り付けたストッパーに固定。その後はコンクリートの打設進度に合わせて電動チェーンブロックでストッパー、足場、型枠を順次引き上げていく方式で、クレーンの使用回数が極端に少ない。

下部は完全に足場で覆われていないため、上方で作業しながらフーチングの埋め戻しなど下回りの作業ができ、作業効率や時間短縮効果も高い。現場の監理技術者を務める宮坂建設工業の中島優士本部長は「なんといっても、転落の心配がないのが大きい。それに組み立てるのに手間がかからない。足場の天井高が2メートルあるのも良い」と太鼓判を押す。

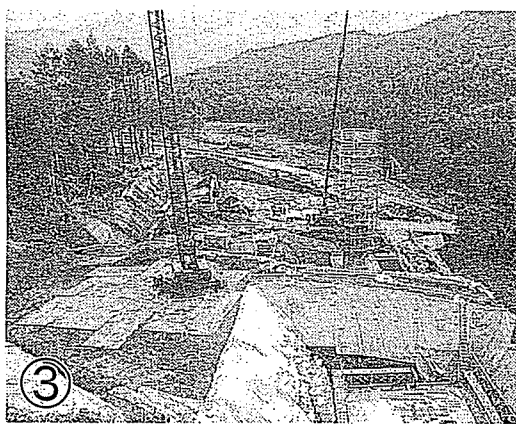
一方で「従来のものに比べてコストが掛かるのがネック。それに特注品で使い



①



②



③

①まず地面で足場を組み立て②橋脚に打ち込んだアンカーボルトに固定されたストッパーにクレーンでセツトする③完成したSPU（写真はいずれも宮坂建設工業提供）

回しできないのがつらい。ロットがまとまるとあるときか、50メートルの本当のハイピアでなければ」と改良点を指摘するが「安全性や施工性だけを考えると非常に良い」。

日本仮設の菊原洋務営業本部長は「最も価格が高かったときに比べて今は半値ほどになっているが、こういう時代でもあるので部材のリサイクルなど、価格を下げる努力はこれからも続けていきたい」と話している。